

1. 事業の実施状況

【整備前】



【整備後】



区画整理により、勾配やうねりを修正し、
営農作業の効率をアップ



農道整備による道路幅員の拡大や舗装により効率的な
機械搬入や農作物の輸送効率が向上



暗渠排水により、ほ場の湿害を解消し、作物の育成
不良解消、営農作業の効率をアップ

2. たまねぎの営農状況



定植状況



収穫状況

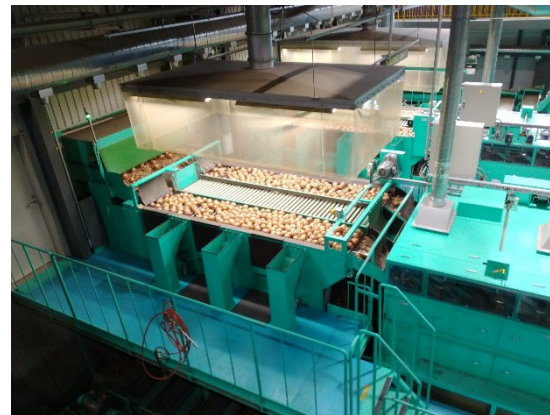


運搬状況

3. 生産されたたまねぎの集出荷施設



たまねぎ集出荷施設（JAきたみらいが運営）



たまねぎ集出荷施設内部の作業状況

4. 6次産業化の取り組みについて



オニオンスープ



たまコロ



たまねぎポタージュ

地域内で生産されたたまねぎは、様々な製品に加工販売

5. 農産物の高付加価値化の取組

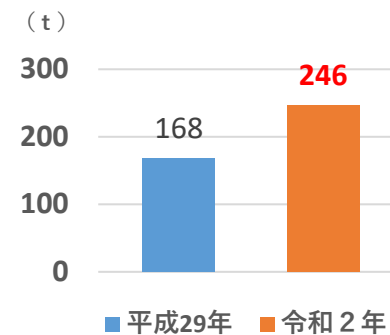


ロシアのスーパーで販売される北見産玉葱



さりり 黄玉ねぎ バコロス 赤玉ねぎ くれない 真白 サラダ玉ねぎ(サラタマ)

多品種にわたる北見産玉葱



北見産玉葱の輸出量の変化

6. 地域住民との協働



地域住民と連携した草刈り



植栽活動

技術検討会委員からの事前意見と回答(令和4年度 北見南地区)

番号	地区名	該当項目	意見等	回答
1	北見南	資料2	令和4年度に事後評価対象になっている2つの事業種のうち、評価実施しなかった事業種はなにか。	評価実施にならなかった事業種は農村地域防災減災事業である。また、集落排水施設等を整備する農村整備事業のほか、同じ農業競争力強化基盤整備事業のなかでも今回評価する畑地帯総合整備事業、農地整備事業に加えて、農地中間管理機構関連農地整備事業、水利施設整備事業が事業種として枝分かれしている。
2	北見南	資料3-1-1 p.1	受益地がある地区は、北見市の旧北見市で良いのか。	そのとおり。
3	北見南	資料3-1-1 p.1	計画変更の理由はなにか	詳細設計の実施による要整備量の変化や工事の進捗による排水状況の変化によって、主要工事の整備内容が変更になったため。 最も大きな主要工事の変更は、区画整理で農業機械の大型化及び高度化農業に対応したほ場整備要望があったことによる実施面積の増による(21.5ha→117.6ha)
4	北見南	資料3-1-1 p.1～4	地域農業の動向、農作物の生産量の変化等の各表の出典となっている、農林水産統計年報と農林業センサスのデータは北見市(合併後)の数値で整理しているのか。 また、JAきたみらい聞き取りはJAきたみらい全域のデータか。	農林水産統計年報と農林業センサスのデータは北見市(合併後)のデータ、JAきたみらい聞き取りは、受益内についてJAから聞き取りしたもの。
5	北見南	資料3-1-1 p.2	【作付面積】 水稻の作付面積が計画より多いのはなぜか。	北見南地区内でJAきたみらいがもち米の生産団地を立ち上げたため、水稻が増えている。
6	北見南	資料3-1-1 p.2	【農産物の生産量の変化】 もち米の生産団地が地区内にあるのか。	北見南地区内でJA北見がもち米の生産団地を立ち上げたため、水稻が増えている。

技術検討会委員からの事前意見と回答(令和4年度 北見南地区)

番号	地区名	該当項目	意見等	回答
7	北見南	資料3-1-1 p.4	【担い手の体質強化】 認定農業者や農地所有適格法人等の担い手への農地集積が進んでいるが、現在の担い手の平均年齢はどのぐらいなのか。 今後も地域で営農が継続的に行われるには、担い手として若手農業者が増える必要があるが農業者の後継者候補がいる割合はどのぐらいか。	担い手の平均年齢は令和3年度時点で担い手の平均年齢は53歳。 受益農業者の後継者割合は30.3%となっている。(評価時点142戸のうち後継者がいる戸数は43戸(30.3%))
8	北見南	資料3-1-1 p.5	【6次産業化の取組と雇用の創出、輸出の取組み】 記載しているたまねぎ集出荷施設とは、北見市相内にある新たに作られた施設か。	北見市相内にあるたまねぎ集出荷施設のことである。
9	北見南	資料3-1-1 p.5	【6次産業化の取組み】【事後評価結果】 6次産業化の取組みを今後推進するとあるが、たまねぎでの取組みか、すでにたまねぎはスープや加工品が出されており、たまねぎ単体では難しいのではないか、他の農産物等での取組みはないのか。	6次産業化の取組みについては、たまねぎのほか、じゃがいも「スノーマーチ」を使用したポテトコロッケを地区内の農産加工会社において加工・販売している。 また、地区内で生産された小麦を主原料とし、地元の製麺会社で製造した「麦香旨(ばかうま) 麦まるごとうどん」をJAきたみらいで販売している。
10	北見南	資料3-1-1 p.5	【環境保全型農業の取組】 地区内で堆肥等の有機質資材を導入しているが、この有機質(堆肥)は地区内で耕畜連携を行っているのか、それともどこからか購入しているのか。	地区内に畜産農家がないため、近隣の畜産農家から堆肥を購入しているが、JAきたみらいでは、管内の耕種農家(麦かん)と畜産農家(堆肥)が相互利用する循環型農業に取り組んでいる。
11	北見南	資料3-1-1 p.5	【環境保全型農業の取組】 堆肥等の有機質資材や緑肥を導入するなど環境保全型農業の取組面積はどのぐらいか。	環境保全型農業の取組は地区全域(705ha)で行っている。
12	北見南	資料3-1-1 p.5	【スマート農業の推進に向けた取組】 スマート農業に取り組んでる農業者はどれくらいいるのか。 スマート農業について、高齢農業者はシステムが分からない、現在の栽培技術で問題ない等で取組に至らないとの話を聞くことが多い。本地区で農業者がスマート農業を行わない理由として主なものは何か。	受益農業者でスマート農業に取り組んでいる割合は調査結果がないため、不明であるが、オホーツク管内で実施した調査ではICT機器(GNSSガイダンス、自動操舵システムなど)を導入している割合は76%となっている。 一方で、「導入費用が高い」「操作方法や設定を覚えるまでに時間がかかる」「どの機器がつかいやすいのか分からない。(使用するトラクターメーカーによって取り扱う機器が異なるため)」といった意見により、特に高齢者で普及が進んでいない現状もある。

技術検討会委員からの事前意見と回答(令和4年度 北見南地区)

番号	地区名	該当項目	意見等	回答
13	北見南	資料3-1-1 p.5	【自然環境】 農道の整備計画で路線沿いの樹木の伐採を極力避けたことで動植物の生育環境が維持できているとしているが、具体的にどんな動植物なのか。なお、希少種等に配慮して種名を上げない対応もあるが、どのように考えているか。	路線沿いの樹木の伐採を極力避けたことで、自然の豊かさの象徴である北海道固有種のエゾリスやアカエゾマツの生育環境が維持できている。 地区別結果書を修正する。
14	北見南	資料3-1-1 p.5	【自然環境】 農道の環境配慮の成果として、事業実施前と事業実施後で具体的にどの程度動植物の生息・生育環境が維持されており、環境が維持されている割合等はどのぐらいなのかを教えてください。	動植物の生息・生育環境が維持されているかについては、数字化することは難しいが、土地改良区や受益農家からは事業実施により従前の環境が損なわれたといった意見は聞いていない。
15	北見南	資料3-1-1 p.5、6	【雇用の創出】【事後評価結果】北海道では人員不足が深刻化しており、雇用創出しても人員集まらない状況になっている。農業者一戸当たりの耕地面積や生産規模が拡大しており、人員確保は急務。地域では雇用創出に対して、人員確保できる状況にあるのか。確保できる状況であれば、どのように確保しているのか対応状況を知りたい。	営農については規模拡大に向け、労働時間の節減を目指した農作業機械の大型化やICT技術の導入で対応するとともに、JAきたみらいでは2020年から外国人技能実習生を受け入れしており、今後も技能実習制度を活用した人員確保に取り組んでいく。 加工・出荷については事業完了後に人員確保済みであり、今後もこの人員を維持していく。
16	共通		両地区ともに環境保全型農業を進めているが、有機農業等のみどりの食料システム戦略の取組を進められているのか確認したい、事業の効果としてどのように寄与しているのか興味深い。	北見南地区においてはエコファーマーの認定を受け、環境に配慮し、独自の栽培基準(化学合成農薬・化学肥料の使用を北海央基準より低減)を設定した「Ecoみらいブランド」のたまねぎ・じゃがいもの生産に取り組んでおり、基盤整備実施後は減肥・減農薬に繋がったとの農家の声もあることから、今後も拡大していく予定。